矢口 和美 助教
博士（保健学）
Kazumi Yaguchi
✉ kazumi.yaguchi@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword 高齢者、家族介護者、介護職員、介護ロボット

プロフィール
2012年　一般財団法人　こまつ看護学校　専任教員
2019年　福井県立大学大学院　看護福祉学研究科　看護学専攻　博士前期課程修了
2020年　公立小松大学　保健医療学部　看護学科　助手
2022年　公立小松大学　保健医療学部　看護学科　助教
2023年　金沢大学大学院　医薬保健学総合研究科　保健学専攻　博士後期課程修了

研究分野
高齢者看護／地域看護／在宅看護／介護ロボット

所属学協会
日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護実践学会、日本在宅ケア学会、
日本看護学教育学学会、日本うんこ文化学会、日本エンドオブライフケア学会

専門分野・研究分野

地域で暮らす高齢者・家族介護者（介護職員）の支援と介護ロボットの有用性に関する研究

これまで看護職として、また家族の一員として、看護・介護に携わってきました。「要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける」ことを支援する中、多くの喜びや幸せを実感するとともに、大変さや困難さにも直面してきました。要介護状態になっても地域で自分らしく暮らすことは当たり前のように思えますが、決して容易ではありません。

高齢者人口の増加に伴い、要介護高齢者も増加の一途を辿っています。一方、介護人材の高齢化は進み、2025年には約38万人の介護人材が不足するといわれ、介護の需要と供給の不均衡が浮き彫りとなっています。このような現状において、高齢者や介護に携わる家族双方が「地域で自分らしく暮らす」ことができるよう支援していくことは課題です。

地域で介護を受けながらも自分らしく暮らしたいと願う人々、自分なりの介護と生活を継続したいと願う人々、また介護に携わる専門職として高齢者を支えたいと願う人々、その願いを実現するためのシステムづくりやテクノロジーを用いた介護機器による支援に関する研究に取り組んでいます。

研究内容

高齢者における介護ロボットの活用

近年、高齢者の自立支援や介護者の負担軽減を目的に、介護ロボットの開発・実用化の取り組みが推進されています。介護に携わる職員の認識に焦点を当て先行研究をまとめた結果、高齢者の安全面や倫理的側面への懸念、介護ロボットに仕事をとって代わられる懸念などが明らかとなりました。

現在は、介護老人福祉施設の職員および管理者を対象に、高齢者における介護ロボットの活用実態や介護ロボットの有用性に関する研究を行っています。

分類	目的・使用イメージ・商品名
移乗支援	ロボット技術を用いて介助者のパワーアシストを行う装着型の機器 商品名：「マッスルスーツ」「HAL腰タイプ介護支援用」等
	ロボット技術を用いて介助者による抱え上げ動作のパワーアシストを行う非装着型の機器 商品名：「ロボットヘルパーSASUKE」「リショーネPlus」等
移動支援	外出をサポートし、荷物等を安全に運搬する機器。屋内移動や立ち座りをサポートし、トイレへの往復や姿勢保持を支援する機器。 商品名：「リトルキーパス」「ロボットアシストウォーカー」等
排泄支援	排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置の調整可能なトイレ。的確なタイミングでトイレへ誘導する機器。 商品名：「ベッドサイド水洗トイレ」「リリアムスポット」等
見守り支援	介護施設において、センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム 商品名：「シルエット見守りセンサ」「眠りSCAN」等
コミュニケーション支援	高齢者等とのコミュニケーションにロボット技術を用いた生活支援機器。 商品名：「PALRO」「パロ」等
入浴支援	ロボット技術を用いて浴槽に出入りする際の一連の動作を支援する機器。 商品名：「wellsリフトキャリー」「バスアシスト」等
介護業務支援（介護ソフトなどICT）	ロボット技術を用いて、見守り、移動支援、排泄支援をはじめとする介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等の必要な支援に活用する機器。 商品名：「ケア記録支援ソフトすこころTablet」等

（参考：厚生労働省「ロボット技術の介護利用における重点分野」）

表1. 介護ロボットの分類一覧

シーズ・地域連携テーマ例
- 在宅療養を継続する高齢者と家族介護者の支援
- 高齢者における介護ロボットの活用

論文
- 高齢者における介護ロボットの活用－介護に携わる職員の認識に焦点をあてた文献検討－，矢口和美，加藤真由美，看護実践学会誌，34（1），52-62，2022
- 看護専門学校生に対する“支援ツール”を用いた学校生活支援の実践報告，片山美穂,鈴木由依子，北岡和代，矢口和美，前田朱美，津田裕子，久司留理子，看護実践学会誌，34（1），97-105，2022

書籍等出版物
- 地域・在宅看護論Ⅱ支援論 暮らしの場における多様な支援を考える 改訂第3版，南江堂（「4. 移動・活動と休息の支援」章 担当）

講演・口頭発表等
- 特別養護老人ホーム職員の介護ロボット活用における介護観への影響，矢口和美，加藤真由美，日本看護科学学会第43回学術集会，2023，12
- A市生活者の排便状況に関する実態調査：排便状況と困りごと，徳田真由美，矢口和美，清水由香里，榊原千秋，角地孝洋，日本うんこ文化学会第3回学術集会，2023，12
- 臨床指導者と大学教員が認識する臨地実習における看護学生の責任ある行動：動詞焦点化の計量テキスト分析，有田弥棋子，矢口和美，日本看護学教育学会第33回学術集会，2023，8
- Usefulness of Care Robots in Nursing Homes JAPAN: Comparison of Perceptions of Managers and Care Workers，Yaguchi K，Kato M，IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023，6
- MANAGEMENT AND ACCIDENTS RELATED TO CARE ROBOTS IN JAPAN:A CROSS-SECTIONAL SURVEY OF NURSING HOME MANAGERS，Yaguchi K，Kato M，26th EAFONS 2023,2023,3
- 特別養護老人ホーム職員の介護ロボットの活用状況に関する認識と関連要因，矢口和美，加藤真由美，日本看護科学学会第42回学術集会，2022，12
- 排便日誌の有用性に関する文献検討，矢口和美，徳田真由美，清水由加里，日本うんこ文化学会第2回学術集会，2022,12
- 高齢者の排便の意味に関する文献検討，徳田真由美，清水由加里，矢口和美，日本うんこ文化学会第2回学術集会，2022,12
- ISSUES IN THE UTILIZATION Of CARE ROBOTS RECOGNIZED BY THE MANAGERS Of NURSING HOMES，Yaguchi K，Kato M，25th EAFONS 2022，2022，4
- 高齢者における介護ロボットの活用－介護に係わる職員の認識に焦点を当てた文献検討－，矢口和美，加藤真由美，日本看護科学学会第41回学術集会，2021,12
- 終末期がん療養者および家族の最期の療養の場決定を支援する訪問看護師の役割意識，矢口和美，普照早苗，日本看護研究学会第45回学術集会，2019,8

社会貢献活動
- 小松市介護認定審査委員（2023年度－）